



学校だより

平成30年2月23日

横浜市立高田中学校

3月号(第29-12号) TEL: 591-4183 校長 福田 之男

学校運営協議会

2月16日(金)に今年度4回目の学校運営協議会が本校図書室で開催されました。学校運営協議会とは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。年間4回の開催が予定され、今回が今年度は最終となります。また、今年度から、併設型小・中学校に指定されたことにより、高田小、高田東小との合同の学校運営協議会となっています。



2回目と3回目の学校運営協議会は、それぞれ高田小学校、高田東小学校で開催され、それぞれの小学校での教育活動について説明され、その後話し合いがなされました。

今回の学校運営協議会では、①「学校・地域コーディネーターからの今年度の活動報告」、②3校より「いじめ防止基本方針」の説明、③各小中学校の今年度の教育活動の振り返り、④「併設型小中学校としての今年度の取組と来年度に向けて」、の4点について協議がなされました。②の「いじめ防止基本方針」については、市教委の「いじめ防止基本方針」の改訂を受けて、各学校で変更した点について説明され、その後「いじめ防止」について、各委員より質問や意見があり、いじめをどのように防止すべきかについて熱心な議論が行われました。③の「各学校の教育活動の振り返り」については、各学校で実施された「学校評価アンケート」の結果を基に、考察が説明されました。④の「併設型小中学校としての今年度の取組と来年度に向けて」については、今年度新たに取組んだ中学校教員による小学校教員との小学校児童を対象とした授業についての説明や、今年度の取組から見えてきた課題についての説明がありました。

最後に、早稲田大学人間科学部学術院教授で委員の浅田匡先生と教育委員会の指導主事より、指導講評をいただき閉会となりました。次年度も、学校と地域が協働して子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。

学校評価アンケートについて

12月に実施された「学校評価アンケート」の結果をお知らせいたします。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

- 生徒・保護者・教職員とも、設問のほとんどが「そう思う・だいたいそう思う」が80%以上という肯定的な回答であり、また、設問1「生き生きと学校生活を送っている」は生徒・保護者・教職員とも80%が肯定回答であることから、本校の学校教育活動が順調に行われて、一定の成果を上げていると言える。
- 特に、設問8「学校のきまりや社会のルール・マナーを守って生活している」設問9「挨拶や時間を守るなどの基本的な生活習慣が身に付いている」は生徒・保護者・教職員すべてで90%以上の肯定回答であり、本校の生徒はきちんとした生活態度で規則正しい生活を送っている子が多いという現状を表している。
- 設問7「職業講話・職場体験・進路学習などを通して、自分の生き方を考えることができている」ということであるので、今後もキャリア教育の充実を図っていきたいと思う。
- 設問10「地域や小学校との連携」に関する設問では、今年度から併設型小中学校としてスタートしたことで、教職員の意識はかなり高いが、生徒にとって何かに変化したわけでもなく、併設型と言っても今までと変わったことがない。むしろ併設型であるなら児童・生徒の交流をもっと活発に行うべきではないかと考え、今後の課題の1つである。
- 設問11「一人ひとりに寄りそう指導」という設問の意味が漠然として生徒には分かりにくかったようで、ポイントが落ちているようである。設問のことばも吟味する必要がある。
- 設問13「分かりやすい授業・工夫された授業」についても、教職員が研修・研鑽を積んでいく必要がある。学校内でお互いの授業を見合っていくなどすぐに実行できることから着手していききたい。

合同学芸会で発表してきました！ 個別支援学級（5，6組）

1月24日（水）に横浜市合同学芸会が戸塚公会堂で行われました。5，6組として、高田祭で発表したトーンチャイム演奏を、よりレベルアップして合同学芸会でも発表するために、日々練習に励んできました。

例年は西公会堂で行われていますが、今年は初めての会場ということで、舞台の奥行きや舞台袖で演奏前に準備する手順等、慣れない中での発表となりました。今年の高田中学校の発表は、なんと最後の24番。大トリ！という大役を任せ

れました。クラス全員「大トリにふさわしい演奏をしよう。」を合い言葉に毎日練習を積み重ねてきました。

高田駅に集合して電車に乗ろうとすると、前日までの雪の影響で電車が満員で乗れずに断念。急遽網島までバスに乗り、東横線に乗り換えるというアクシデントがありましたが、それを吹き飛ばすほどのパワー全開で、元気に戸塚公会堂に向かいました。

午前中は、ほかの学校の発表を見学しました。ダンス・合奏・劇・ダブルタッチなど、各学校趣向を凝らした発表でした。午後の演奏が始まると、少しずつ緊張感が高まってきました。

本番の幕が上がりました。全員が固唾を飲んで、落合先生の指揮の手に集中しています。曲が始まりました。課題であった「音の響き」「和音を合わせる」「曲の最後のスロー部分をそろえる」を意識して演奏することができ、演奏が終わると、会場からは割れんばかりの大きな拍手をいただくことができました。

全員が満足した、思い出深い合同学芸会となりました。



1 学年自然教室 ～「107色の光→赤色の光」は輝いたか～

日本海側は例年になく豪雪で、雪に閉じ込められて大変な生活が続いているというニュースが繰り返し流れて、自然教室が行われる長野県白樺湖周辺はどうなっているのだろうと心配していました。それに追い打ちをかけるように、年明けから1年生の中ではインフルエンザがじわりじわりと広がりを見せ、今度は自然教室が実施できるのだろうかという心配が加わってきました。しかし、日頃の行いがよいお陰で、インフルエンザも山



を越え、1年生は2月9日（金）無事、長野県白樺湖ロイヤルスキー場へと2泊3日の自然教室に出発しました。昨年はお天気に恵まれたものの、昼間でもマイナス10度という極寒の3日間でしたが、今年は何と周囲の山々はところどころ茶色の地肌が見える状況で、予想外に暖かでした。



初日は7時半集合、8時にバスは出発。高速道路を乗り継いで中央高速道路に入ると雪景色が見え始め、バスレクで盛り上がったテンションに拍車がかかりました。予定通りにホテルに着くと、高田中学校歌のピアノ生演奏がおもてなしをしてくれて、嬉しいサプライズにまたテンションが上がりました。



昼食をすませると、いよいよ講習スタートです。経験者も初心者もドキドキ、ワクワクしながら、時には悪戦苦闘しながら一生懸命に受講していました。



夜は全体レクで大盛り上がり。特技や一芸が披露されたり、腕相撲大会が行われたり、さながらミニ高田祭のようでした。



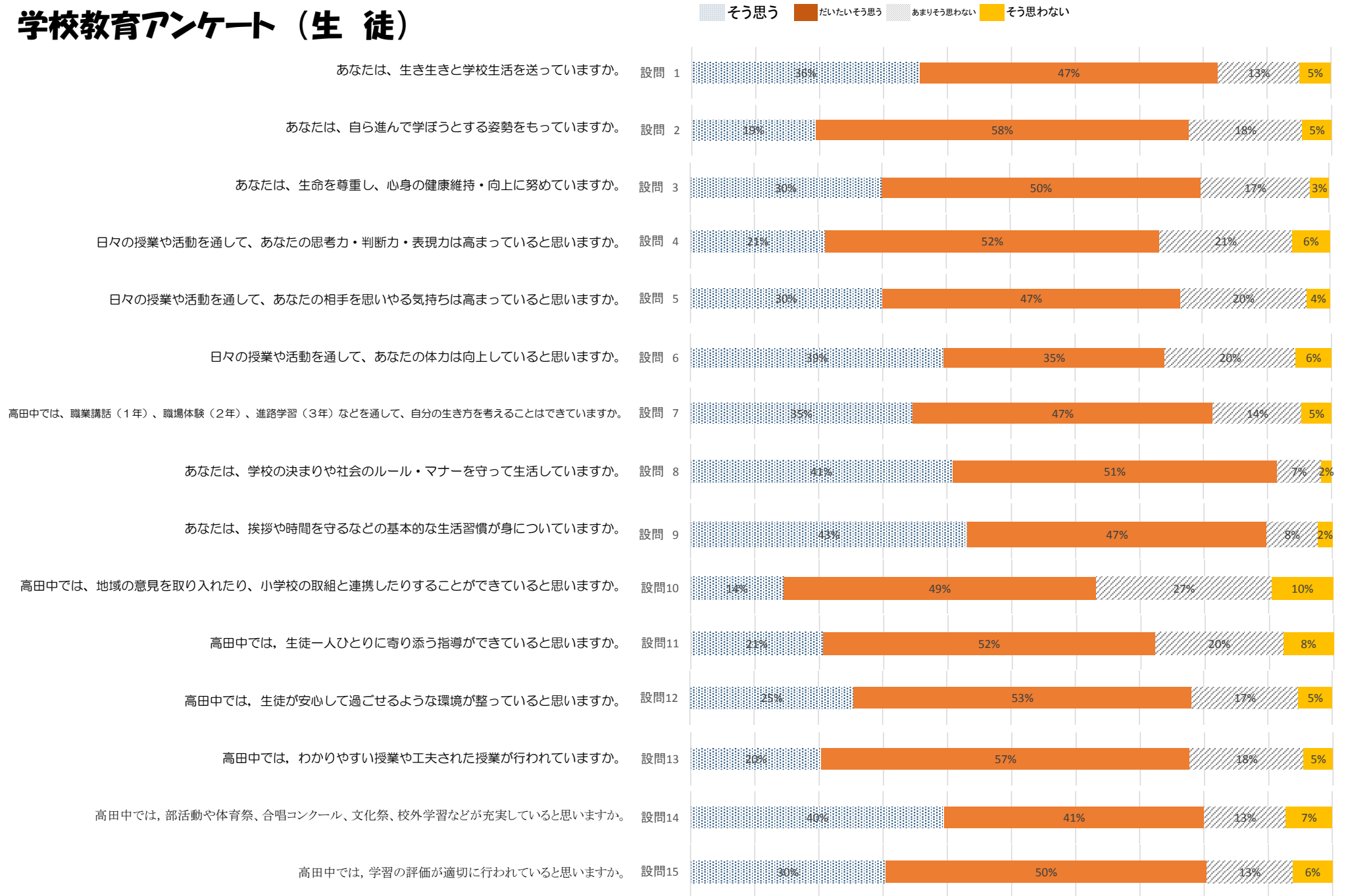
2日目は、午前・午後・夜（ナイター）と講習がありました。夜の講習時には、吹雪で先が見えないような状態でしたが、皆めげることなく頑張っていました。ある意味で雪山の厳しさを味わうという貴重な体験ができたと思います。

3日目はフリー滑走でしたが、皆スイスイと上手に滑って、本当に気持ちよさそうでした。



3日間を通して、「食べる・寝る・滑る・ルールを守る」を実行し、赤学年全体で一つの仲間になって欲しいという願いを込めたスローガン「雪国にみせろ～107色→赤色の光～」を実践し、仲間と協力して活動できた自然教室であったと思います。この貴重な経験を卒業までの2年間、赤学年の仲間の絆として大切にしてください。

学校教育アンケート（生徒）



学校教育アンケート（保護者）

